

特設陸上勤務才四十二中隊部隊略歴

中隊長 江尻理一郎

年月日	概要
昭 六 九 元 至 自 二 三 元 三 三	軍令陸甲才三十一号に依りイスマトラ島「メダン」市に於て、才十五独立守備隊兵才五十六大隊松浦中尉以下三名才五十七大隊、岩崎軍曹以下二名、才五十八大隊佐藤曹長、南方才十陸軍病院石井衛生上等兵の四十七名編成要員として編入、基地陸軍大臣差出人員中隊長江尻中尉以下二名兵補未受領の儘編成完結、零時を以て才二十五軍の隷下に入り、才二十五軍野戦兵器廠長の指揮に入る。 「メダン」市外「タンジョンハラワ」兵器廠に移駐。 北部「スマトラ」防衛作戦に従事。 転進のため屯営出発「スマトラ島」バラボン「港」出発。

年月日	概	要
昭和八 二 三	昭南港上陸 昭南中兵舎に於て待機	
二 六	昭南港出発	
二 二	「ジャワ」島「ジャカルタ」港上陸	
五 二	「ジャカルタ」港出発	
九 五	「ジャワ」島「スラバヤ」港上陸訓練待機	
九 二 五	戦進のため「ジャワ」島「スラバヤ」港出発「ヤニ」軍の隷下に入る	
五 三	「バリ」島沖合の戦いに於て敵替奥留攻具を受け輸送船沈没と共に漂流、松浦中尉以下三三名兵捕三六九名戦死	
六 五	次十一号駆着艇に救助	
六 五	「バリ」島「ミンガラジャ」海軍民政部に集結	
五 五	「ジャワ」島「スラバヤ」港出発 同時「十九」軍の指揮に入る	
五 五	「チモール」島「デリー」港上陸「チバル」駐留「四十八」師団長指揮に入る	

-285-

0307

年月日		概	要
自昭元	六二	濠北地区防衛作戦	
至	三三	「エルメラ」に駐留	
自	一	濠北地区防衛作戦	
至	三九	輝才三号作戦	
自	二	勢才三号作戦	
至	二	停戦大詔演説	
自	八	兵団集結のため「エルメラ」出発	
至	九	「ゴリエタ」出発	
自	二	「フロレス」島「ゴンガ」上陸	
至	五	「マルメラ」着	
自	六		

年月日	
概 要	自昭 八 六 至 二 七 「フロレス」島「マルメラ」並に「スンバワ」島「バジヨ」 に於て大東亞戦役終戦業務に従事 元兵補ハジオヌマン以下四八名「マルメラ」民政部に引渡完了 「スンバワ」島「バジヨ」出発 「スンバワ」島「ロホツケ」に集結完了 「スンバワ」島「ロホツケ」に於て大東亞戦役終戦業務に従事す 「スンバワ」島「」出発 港上陸 復員下令 部隊復員完了 歴代部隊長 陸軍中尉 江尻 理一郎

陸上勤務才六十九中隊部隊略歴

年月日	概略
昭 天 七 八 四	勳賞下令 編成完了
六	屯管合津岩松出發
六	大阪港出帆
三	大連上陸
三	キ一六野戰勤務隊長の部下に入る
三	関東州界通過
九	牡丹江省寧安原東京跋到着
二	同寧安原南崗に移駐
二	南崗出發
二	関東州界通過
二	大連到着
五	南方才三飛行集團長の部下に入る

年月日		概	要
昭	天	二	面
至	自	三	三
至	自	七	三
至	自	二	四
至	自	七	七
至	自	二	六
至	自	七	三
至	自	三	五
至	自	七	三
至	自	二	一
至	自	八	二

大連港出帆	仙領印度支那「カムラン」上陸	「カムラン」上陸出帆	泰國「シンゴラ」上陸	同地に在りて馬來作戦に参加燃料弾薬輸送業務	前進のため「シンゴラ」出帆	泰、馬來国境通過	馬來「クルトシ」到着	同地に在りて馬來作戦間燃料弾薬の輸送業務	オ、エ飛行師団長の隷下に入る	同地に在りて、オ、エ、馬來周辺地区航空兵隊戦術、主として航空兵隊の輸送並に警備
-------	----------------	------------	------------	-----------------------	---------------	----------	------------	----------------------	----------------	---

年 月 日		概	要
昭 六 一 三	自 至	部隊転進のため昭南島出帆	
二 六		ジャワワスラバヤに上陸	
二 一		ワスラバヤに出帆	
六 六	自 至	ワチモールに島ワデリーに上陸	
五 三		同地に在りてワチモールに周辺地区掃蕩戦間飛行場設定業務	
二 八	自 至	オセチ行師団長の部下に入る	
五 四		部隊転進の爲ワデリーに出帆	
七 七		ワフロレスに島ワマルメラに上陸	
七 四		転進の爲ワマルメラに出港	
六 六	自 至	ワチモールに島ワウテンに	
一 三		同地に在りてオセチ洲進攻作戦並にワチモールに周辺地区掃蕩戦	
二 九		間飛行場の整備及整備	
		転進の爲ワウテンに出発	

年 月 日		概 要
昭和 八 二 二	自 三 二	「プロセス」島「マルメ」上陸
至 七 五	自 八 五	同地に在りて濠洲裏減戦面、飛行場の整備並に警備
至 二 五	自 二 五	才三航空軍司令官の隷下に入る
至 三 三	自 三 三	同地に在りて大東亞戦役終戦業務
		果結のため「マルメ」上陸
		「スンバワ」島「バダス」上陸
		「ロホック」果結完了
		歴代部隊長
		陸軍中尉 星 多良夫
		陸軍大尉 佐々木 一郎

特設自動車才三十三中隊略歴

通称番号
部隊長

海一五一三
陸軍大尉 大西 補 告

年 月 日	概 要
昭和一九一五	位 置 終戦時 ジメワ島バニユウワンギ移動中 終戦後 バタビア作業隊 編 成 地 チモール島ソエ 兵出身地 四国 九州 東京 その他

-292-

0314

年月日	概要
	編成後 間もなく一ヶ小隊がフロレス島に行き輸送業務に従事 其の他はソエに在って輸送業務に従事 中隊長は直ちに兵補教育のためスラバヤに出張、約二ヶ月後、兵補 を引率してスンバ島ワインガツプに上陸、同地に於て中隊全員会し 同島ワイマンプラにて静兵団警備に努力、主として輸送業務に従事 昭和二十年八月初、シンガポール集結のため同島出発、スンバワロ ンボツク、バリ島に至り、ジャワ島に上陸と同時に終戦となる。 終戦より帰還迄の行動の概要 終戦と同時にバリ島に引返し同島独立運動のため反乱の警備 進駐軍進駐後も約三分の一の人員に對する兵器を授与され、その年 の木項バタビヤタンジョンプリオクの才一作業隊に船で送られ、二 年の四月迄船の荷役並に倉庫の出入等の業務に従事途中、三名か ら四、五名位の人員が輸送船が来る度に二、三、四内地に叛退せし め最後は全員二十二年四月五日攝津丸にて母島に上陸復員せり

-270-

0315

特設自動車中隊略歴

年 月 日	概 要
昭和 一 一 一〇	軍令陸甲ヲ七十九号に依り臨時編成下令 漸成宛結
自 三 三 五	「モール」島に於て濠北地区防衛作戰
至 一 一 一	「モール」島に於て濠北地区防衛ヲ一号作戰
自 三 一 九	輝ヲ三号作戰
至 六 三 五	勢ヲ三号作戰
自 八 三 四	停戦大詔澳発 歴代部隊長
至 三 八 四	陸軍大尉 川 島 東 成

29
91

特設自動車ヲ三五中隊略歴

海ヤ一五五部隊

年 月 日	概 要
昭和 五 一 一 〇	軍令陸甲ヲ七十九号に依り 特設自動車ヲ三十五中隊の臨時編成を命ぜられ、予モールと島イデリーに歩兵ヲ四十七連隊に於て編成を着手
元 三 元	歩兵ヲ四十七連隊に於て編成完結
至 自 三 一 三 元	車輛要領のため 服部少尉以下二〇名（？）ヲイワロレスと島イマ ルメラに派遣車輛要領に任ぜしむ 然るに 海上輸送円滑ならず 昭和二十年九月四日迄当地にありて翌連絡所長の指揮下にありて、 同地の輸送業務に従事 本隊同地到着と共に主力に復帰す この間 一尊兵 清松正 同地療養所に入所後、スラバヤレに後送になりた るも其の後遂に本隊に復帰せず（大分県南都郡出身？） 臺北地区防衛作戰に参加

0317

年月日										概	要
自	至	自	至	自	至	自	至	自	至		
一	三	三	六	三	八	三	八	四	八		
一	元	元	元	四	五	五	四	四	三		
臺北地区防衛ヲ一ノ作戦ニ参加 輝ヲ三ノ作戦ニ参加 勇ヲ三ノ作戦ニ参加 戦病死下士官ニ一ノ入院兵ニ 停戦大招喚発せらる 転進の爲メチモール島ヲマリエタト港出帆 フフロレス島ヲラレントカト上陸 フフロレス島に於て待機 フスンバワレ島某街の爲メフフロレス島ヲレオト港出帆 フスンバワレ島ヲビワレ陸上陸											

年月日		概	要
自 二 〇 三	至 三 五 九	イスンバワレ島イスンバワレ市上待機	
自 〇 〇	至 〇 〇	イスンバワレ島イロボツクレ乗船	
自 三 五 五	至 三 五 五	イスンバワレ島イロボツクレに於て大東亞戦役終戦業務に従事す	
元 五	元 五	彼員のたのイスンバワレ島イバダスレ港出帆	
元 五	元 五	名古屋港上陸	
元 五	元 五	復員下令	
元 五	元 五	復員見舞	
元 五	元 五	歴代部隊長	
元 五	元 五	陸軍大尉	
元 五	元 五	芝崎 圓三郎	

作井才一中隊 燃料部隊略歴

南スマトラ燃料工廠作井才一中隊 燃料部隊
海才七八四四部隊

年月日	概	要
昭和八 年七月 二日	野戦作井才五中隊に於て 同隊チモール島分遣隊編成完結 將校以下四十二名	
至 自	スマトラ島パレンバン港出帆 チモール島に向う	
三 三	スラバヤ港寄港	
元 毛	チモール島クーパン上陸 台湾軍才四八師団に配属	
三 三	クーパン附近に於ける作井給水作業に従事	
	一日附不詳ノ野戦作井才五中隊は南スマトラ燃料工廠作井才一中隊に改編せられ 將校以下四十二名 クーパン到着	
	南スマトラ燃料工廠作井才一中隊 燃料部隊編成完結	

年月日	概	要
昭和六三 元三	將校以下八四名 採油の目的を以てデリーに向い前進 デリー到着	
元一	クリバスに前進 同地附近に在る油田開設 採油製油作業に従事	
六	(日附不詳) 師団司令部移駐の爲將校以下三十八名(推定)デリー 附近に於ける水井給水作業に従事	
九	(日附不詳) 任務終了トつき將校以下三十八名中隊主力に復帰 勢オ 号作戦の爲クリバス出発	
八	デリー到着	
三	デリー出発	
自六 至八	間戦死 戦病死なし 作戦任務を解除され 將校以下八十四名、オ四十八師団兵器勤務隊 に転属	

才四八師団百九兵站病院部隊略歴

才十六軍直屬

才百九兵站病院長 川島一雄

年 月 日	概 要
昭 六 三 一	編成下令
七	編成完結
九	門司港出發
四 四	マラヤに經由アンボイナに島上陸
	不後の行動並に業務の状況附表才一、二の如し
才一 半 部	
三 九	戦病死 衛生兵一
二 五	戦死 軍医將校一 赴任途中輸送船暴死
二 五	戦病死 衛生兵一

年月日	
概 要	部隊に於て治療せし患者の年度別概数附表ヲ三略す 附表ヲ一 ヲ一半部（主力） シヤワ島（ヲ一半部） 一部人員は南方ヲ七陸軍病院 スラバヤ 待機 兼務援助駄漕津備 千モール島、病院 クーパン 開設 クーパン附近駐留部隊患者及千モール島西部地区後送患者収療 スンバニ島ビマ 病院開設（主力） ヲ四十六師団野戦病院の兼務を継承し「ビマ」ラベレ附近 駐留部隊患者療ヲ一半部集結完了

年月日		概	要
至 三 二	自 三 二	スンバラ島スンバラブザール 患者療養所（一部） 同地駐留部隊患者収療	
至 三 二	自 三 二	患者療養所（一部） オニ師団オニ野戦病院オニ半部より兼務継承す	
至 三 二	自 三 二	バリー島デンバツサル バリー島ケデリ 病院開設（主カ） 同地附近集結部隊患者収療	
至 三 二	自 三 二	バリー島ネガラ 同地に開設し同地区集結部隊患者収療	
至 三 二	自 三 二	バリー島クロンコン 同（一部）	

年月日	
概 要	自 二 四 四 至 三 四 四 爪哇島バタビヤ 臨時バタビヤ陸軍病院業務援助 自 五 一 至 五 一 爪哇島バタビヤ 南方オ五陸軍病院業務援助 自 六 三 五 至 四 七 五 附表オニ オニ半部（一部） 自 八 三 五 至 四 七 五 比島マニラ オニ半部 自 六 三 五 至 四 七 五 船舶の関係上待機 自 六 三 五 至 四 七 五 アンボyna、アンボン 待機 南方オ十五陸軍病院業務援助

年月日	至 自	概 要
至 自 元 六 一 二 三	至 自 元 六 一 二 三	西部ニユーギニヤ、バボ 患者療養所（一部） 同地附近駐留部隊患者収療 ハルマヘラ島ハルマヘラ 右に同じ 右に同じ 西部ニユーギニヤ、カイマナ 右に同（一部） 一、ハ木患者療養所閉鎖「カイマナ」転進、同地に患者 療養所開設 二、昭和二十年六月五日 南方オ十五陸軍病院に転展 フロレス島 マウメラ 右に同じ（一部）

年 月 日	
概 要	一、フハルマヘラに患者療養所要員の一部を「カイマナ」に 転進す 二、昭和二十年八月一日、主力に追及す 部隊長 陸軍軍医中佐 川 島 一 雄

患者輸送第三十九小隊部隊略歴

通稱番号 海軍四八〇二部隊
陸軍少佐 江田 整

年月日	概要
昭和二三 三三	編成完結 大阪出発
モ 一	タイ国バンコック上陸
ハ 一	タイ、ビルマ国境通過南部
三	ビルマ、ラングーン出発
三 四	潞北、派遣チモール島上陸
ハ 四	チモール島島嶼
三 八	フロレス島にて終戦
	縮成地 宇都宮

年月日	
概要	兵出身地 橋木 群馬 茨城 長野 編成装備並に指揮隷属関係及其の変遷の概要 隊長陸軍兵科將校 一 隊附軍医 六 征生下士官 若干名 征生兵 三十五名位 装 備 隊医扱 一及三男大具 医扱外征生扱料若干

年月日		概要
昭	年	
七	五	南方総軍隷下 ビルマ派遣中
六	五	蒙北派遣中
一	六	参加せる主要なる作戦（警備、戦斗、行軍、輸送）の概要
六	六	南部ビルマ作戦患者輸送
一	六	死傷損耗 補給
三	八	衛生 患者輸送
八	八	蒙北防犯作戦
三	三	ロロボツク島に於て終戦
六	二	進駐軍の命によりジャワ島に送らる
六	二	ジャワ島バタビア出港
三	二	大竹上陸

患者輸送ヲ六十五小隊略歴

年月日	概要
昭六五 六二	函五六師編ヲ八五〇号により臨時編成下令 編成完結
七〇	門司港出発同日ヲ八方面軍戦闘序列に入る
八五	南洋群島パラオ島上陸南東方面へ前進準備
二二	パラオ島出発同日ヲ十九軍戦闘序列に入る
三一	ヲ二軍戦闘序列に入り同時にヲ十九軍指揮下に入る
元一五	アンボン島上陸待機
元九	アンボン島出発
二六	小スタン列島ヌンバワ島ビマ上陸、同日ヲ四十六師団指揮下に入る
七〇	ヲ十九軍戦闘序列に入る
三二	ヲ四十八師団指揮下に入る
自元三 三九	潞北地区防犯作戦（小スタン列島患者輸送業務）

年 月 日	昭 三 五 自 三 至 六 自 三 至 八
概 要	オニ方面軍戦闘序列に入る 輝オ三号作戦（小スンダ列島患者輸送業務） オニ軍戦闘序列に入る 勢オ三号作戦（小スンダ列島患者輸送業務） 歴代部隊長 陸軍大尉 石橋 一

第八防疫給水部隊略歴

年月日	概 要
昭 三 八 三 九 五	部隊は輜重兵才一連隊（東京）に於て編成完結 東京出發
五 五	神戸港
五 六	中支那九江上陸、才十一軍の隷下に入り才六師団配属武漢攻略戦参加 漢口に突入爾後武昌に位置して警備勤務
五 七	武昌出發
五 八	九江市警備勤務並に南昌襄東、廬山各作戦に参加
五 九	九江出港南京を経て
五 一 〇	大連上陸関東軍の隷下に入り 才五師団の区署を受け、更に大本營直轄の下依然才五師団の区署に於て待機
五 一 一	大連出港南支派遣軍の隷下に入り主力は台湾混成旅団半分を軍兵 站に戦後
五 一 二	欽県上陸作戦に参加引続き欽寧公路沿線及欽寧警備

年月日	概要
昭五二	オ二十二軍の隷下に入り依然配属の儘 獨逸作戦に参加、引続き 欽寧警備
二六	欽寧撤去作戦の爲欽寧出港
二六	主力はオ四十八師団半部は近征師団に配属、夫々警備勤務に従事 半部は近征師団配属を解かれ主力に復帰せり
天三	海口出港
四六	福州上陸作戦に参加引続き同地警備
四六	同地撤去作戦参加高雄を経て
八三	黄捕上陸オ百四師団配属、広東附近警備
九一	黄捕出港
二九	高雄港上陸、オ十四軍の隷下に入りオ四十八師団配属
二二	高雄出港
三六	比律賓呂宋島リンガエン港上陸、マニラ攻略戦に参加
三三	マニラ進駐、同地警備
一六	リンガエン出港、オ十六軍の隷下に入り、オ四十八師団配属の儘
二八	

年月日	概	要
昭 三 一	瓜哇島クラガン附近に上陸、瓜哇攻略戦に参加、爾後スラバヤ及マランに於て戡定並警備	
三 三	スラバヤ出港	
三 七	チモール島クーパン上陸警備勤務	
六 二	オ一九軍の隷下に入り（オ四十八師団配属の儘）更にクーパンよりデリーに転進、各一部を全島各地に派遣、濠北地区防犯作戦、濠北地区防犯作戦に参加	
三 一	オ一九軍解散に伴いオ二軍の隷下に入り勢オ三号作戦	
七 八	デリー出港	
三	フロレス島上陸	
八 四	終戦に至る	
九 五	爾後スンバワ島を経て	
三 四 一	ロンボック島に上陸、オ十六軍の隷下に入り終戦処理 ロンボック島出港	

昭 和 四 六	年 月 日
爪哇島バタビヤ上陸 終戦処理 歴代部隊長 自 昭和十三年八月三〇日 至 十六年十一月十日 陸軍軍医中佐 淺田 精四郎	

兵站自動車第一中隊部隊略歴

海九八九〇部隊

年月日	概要
昭三	頃編成（於東部十七部隊） 同時中支那派遣更に北支方面戦 仏印進駐（オ十五軍 準に直後）「サイゴン」 小官任官と同時に同年十月当隊に転属（オ十七部隊より） 開戦と同時に大戦に参加（「ガムラン」より） シンゴラ上陸マレー半島を南下「シンガポール」に入る ジャワ至由「チモール」島上陸「デリー」に「ラウテン」 頃「ジャワ」に転進 二十名「チモール」にて特設隊に転属 中十五、六名は「ジャワ」→「マレー」→「ビルマ」 方面、他四、五名は「チモール」に残留
天九	
三	
八	
七	
一	

年月日	概 要
昭和 八 五	「ジャワ」「バタビア」に在り 「バンドレ」「ジョクジャカルタ」「マゲラン」「スマラン」 (連合国人輸送、食糧補給) 「スマラン」にて土民暴動鎮圧の為(戦死三名) 英軍と共に警備、共同作戦(城戸部隊) ガラニ島に移駐、集結復員準備 内地引揚(大竹上陸)復員完結
昭和 一 〇	
昭和 三 四	
昭和 六 三	

野戰重砲兵第十二大隊部隊略歴

大隊長 青 藤 興之助

年 月 日		概 要
昭 天 九 二	二	臨時編成下令
天	六	野戰重砲兵才三連隊編成完結
十	六	名古屋港出港（才六中隊及大隊段列は十月四日）
一	四	基隆港上陸同日台北着待命（才六中隊及大隊段列は十月十一日）
三	三	基隆港出港（才六中隊は十一月二十六日才五中隊及大隊段列は十二月四日）
自	一	泰領「シンゴラ」上陸
至	二	泰英領馬來國境通過
自	三	北部馬來攻略作戰
至	五	
自	六	
至	七	中部馬來攻略作戰

年 月 日		概 要
自昭 五 四 日	至 五 五 日	怒江及「ミイトキリーナ」に向う追撃戦
自 六 二 日	至 六 五 日	怒江右岸地区の反撃及掃蕩
自 七 二 日	至 七 五 日	椒横素及騰越南方地区の掃蕩
自 八 二 日	至 八 五 日	「メイメヨール」附近の警備
自 九 二 日	至 九 五 日	「ラングーン」に集結待命
自 一 三 日	至 一 六 日	緬甸国「ラングーン」港出発
自 二 三 日	至 二 六 日	「チモール」島「クーパーン」港上陸（オヤ五中隊「チモール」島 「ライバイ」上陸）
自 三 三 日	至 三 六 日	漳州北方地区に於ける作戦準備並防犯

至 自		至 自		至 自		至 自		年月日	概 要
至	自	至	自	至	自	至	自		
九 九	八 三	八 四	六 三	三 五	一 一	三 一	八 三		
「フロレス」島「コグン」港上陸		「チモール」島「デイリ」港出港		「チモール」島「ゴマイタ」港出港（オニ中隊は八月三十日）		野戦重砲兵オニ大隊編成完結			濠北地区防犯作戦
「フロレス」島「コグン」港上陸		「チモール」島「デイリ」港出港		「チモール」島「ゴマイタ」港出港（オニ中隊は八月三十日）		野戦重砲兵オニ大隊編成完結			昭和二十年軍令陸甲オニ十号に依り編成改正下令
「フロレス」島「コグン」港上陸		「チモール」島「デイリ」港出港		「チモール」島「ゴマイタ」港出港（オニ中隊は八月三十日）		野戦重砲兵オニ大隊編成完結			濠北地区防犯オニ一号作戦
「フロレス」島「コグン」港上陸		「チモール」島「デイリ」港出港		「チモール」島「ゴマイタ」港出港（オニ中隊は八月三十日）		野戦重砲兵オニ大隊編成完結			輝オニ三号作戦
「フロレス」島「コグン」港上陸		「チモール」島「デイリ」港出港		「チモール」島「ゴマイタ」港出港（オニ中隊は八月三十日）		野戦重砲兵オニ大隊編成完結			勢オニ三号作戦

年月日	
概 要	昭 二 二 二 二 二 二 二 「フロレス」島「レオ」港出港（オニ中隊及オニ三 ニ十三日） 「スンバワ」島「スンバワ」ザール港上陸（オニ中隊及オニ 中隊は十一月二十四日） 歴代部隊長 陸軍少佐 横山 経二 斎藤 興之助

特設陸上勤務第三五中隊略歴

部隊長 坂本 清

年 月 日		概 要
昭 六 五 一	五 三	軍令陸甲オ三十一号に依り編成下令 編成完結
自 六 一	二 五	「スマトラ」島防役
至 二 五	二 五	「スマトラ」島「ベラワン」出港
自 六 二	二 五	「昭南」上陸
至 六 二	二 五	濠北方面へ転進の為昭南出港
自 六 二	二 五	「ジャワ」島「スラバヤ」上陸
至 六 二	二 五	「ジャワ」島防役
自 六 三	二 五	勢一号作戦参加の為「スラバヤ」出港

至 自		至 自		至 自		至 自		昭		年 月 日	概 要	
至	自	至	自	至	自	至	自	至	自			
八 四	一 四	三 二	八 六	八 四	五 二	八 三	五 二	五 三	三 二	五 三	三 九	二
濠北地区防犯一号作戦		濠北地区防犯作戦		「ビマ」出港		「スンバワ」島防犯		「スニバ」島「ビマ」上陸		静兵団作戦地へ前進の為「スラバヤ」出港		部隊再建業務
												「ジャワ」島「スラバヤ」着
												「バリ」島「シンガラジャ」上陸
												部隊再建の為「シンガラジャ」出発
												「バリ」島北方海上に於て敵潜水艦の為遭難、下士官以下十名戦死

年月日		概要	要
至	自	停戦大詔喚発 「スンバレ島終戦業務に従事 集結の為「スンバレ島」クイケロレ出港 「スンバワレ島」ロニボレ上陸 「スンバワレ島」ロボックレ集結地到着 「スンバレ島」ワインガツブレ上陸 「スンバワレ島」ロボツフレに於て大東亜戦後終戦業務に従事す 歴代部隊長 大尉 坂本 清 部隊事情精通者	
二	八		
九	九		
二	二		
九	八		

	年 月 日
陸軍主計筆習 本原 三九男 陸軍醫長 鈴木 宗 告	概 要

第四八師団特設建築勤務第二九中隊略歴

中隊長 田中 繁

年月日	概要
昭 六 四 一 三	内地より前進、爾後「ジャワ」島警備 「フロレス」島に前進「フロレス」島「マウメラ」棧橋構築並に 揚塔揚陸
昭 六 二 三	「チモール」島に転進、爾後「チモール」島防衛作戦 建築勤務ヲ五十四中隊ヲ二小队（岡田隊）当隊に転属す、戦后以 前に於ける同隊の部隊略歴は別紙の通り添付す
自 二 七 三	「フロレス」島「スンバワ」島に転進、爾来野戦建築
至 三 三 三	「チモール」島に於て戦病死兵一名「フロレス」島「マウメラ」 に於て下士官一名公病死「スンバワ」島に於て将校一名、准尉一 名、下士官二名、各公病死
歴代部隊長	
陸軍大尉	
田中	
繁	